

甲斐市立 双葉東小学校 自己評価書

平成31年2月1日(金) 作成

校長 「 守木 貴 」 記述者 職名(教頭)「 浅利 進 」

学校教育目標 「 かしこく やさしく すこやかに 」

- ・ 自ら学び 自ら考え 行動する子ども
- ・ 人を愛し 自然を愛する子ども
- ・ 健康で安全な生活を目指す子ども
- ・ 困難なことのりこえる子ども

学校経営目標 ○ 生きる力の育成
○ 学校・家庭・地域の連携協力
○ 教師こそ最大の教育環境

－心の教育の充実を基軸に－
－開かれた学校づくりの推進－
－職員の資質の向上－

学校経営の基本方針

- ①すぐれた伝統を尊重し、児童や地域社会の実態を把握し、学校教育目標の具現化に努める。
- ②豊かな心の育成に向けて、豊かな人間性とその基盤となる道徳性を育てるために、研究・実践に当たる。
- ③確かな学力の定着に向け多様な指導方法を工夫し、日頃の教材研究を十分行い、学ぶ喜び、分かる喜びを味わわせると共に、基礎・基本の確実な定着を図る。
- ④体力の向上、健康な身体づくりのために、体育の授業の充実、業間時間の外遊びの推奨、疾病・怪我から身を守る力の育成等を図る。
- ⑤児童集団の中に起こる様々な問題・課題に対して、子ども自らが気づき、解決に向け発言し、集団の向上・発展に向かって立ち上がる指導を通して、集団づくりを行う。
- ⑥不登校やいじめ等児童の課題に対して、担任一人だけの悩みとせず、学年体制、全校体制など組織的な対応のもとに適切な支援・指導を行う。
- ⑦教育課程の編成・実施・評価・改善のシステムを大切にし、それらが相互に働くように努める。
- ⑧学校の施設・設備、地域素材・地域の人材を活用し、幅広い教育活動を展開し、児童の生きる力の育成に努める。
- ⑨児童の安全確保と学校の安全管理の充実を目指して、教育環境を整備し、明るく楽しい学校づくりと児童の健康・安全教育を推進する。
- ⑩特別支援学級の経営及び特別な支援を必要とする児童についての共通理解と適切な指導に努める。
- ⑪学校・家庭との信頼関係を大切にしながら、児童の良い点や課題について、共に考え合い・育てるという基本的な関係を踏まえて、適切に情報交換する。
- ⑫教職員は常に課題意識を持ち、常に前進・向上を求めて研修・実践に努める。
- ⑬教職員が互いに協力して、社会一般からの要請事項に応えられる職場環境作りに努めながら、子どもたちに向き合う教育活動に専念できるようにする。
- ⑭開かれた特色ある学校づくりを推進するために、学校の情報を的確に保護者・地域に発信し、家庭や地域社会との連携を十分に図り、学校評価システムを確立して教育効果を高める。

1 全体評価

教師のアンケート結果は、概ね高い水準にあると言える。自己評価の多くの項目において、肯定的評価(A・B)が90%を超えていた。このことから、教職員一人一人が、設問に対して肯定的に努力していると考えられる。しかし、Ⅲ「学習指導について」では、授業の指導法や評価に対して不安を感じている回答があった。また、Ⅳ「地域との連携について」では、地域の人材の活用について、より検討をしていく必要がある項目が確認できた。

保護者アンケートにおいては、学校に対する設問12項目中10項目に置いて、80%以上の保護者が肯定的評価(A・B)であった。保護者も、概ね学校について満足していることがうかがえる。また、子どもの様子についての設問では、肯定的評価が80%に達しなかったものは、昨年と同じ「お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか。」等4問であった。

児童アンケートにおいては、肯定的評価(A・B)が80%以上であるものが、24問中22問であった。このことから、学校生活が充実していることがうかがえる。また、「授業中に質問や意見を言っていますか。」や「授業でわからないことがあったら先生にきいていますか。」の設問は、昨年度よりも肯定的な回答が増えている。また、「困ったことがあったら、相談できる先生がいますか。」の設問も、昨年よりも『いる』と回答した児童が78.5%と3.7%増え、先生との信頼関係はより良くなって

いることが分かる。	
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	8問中7問の設問で肯定的評価（A・B）が97%以上であった。また、全項目においてA評価（とてもそう思う）がB評価（そう思う）を上回っている。このことから、概ね問題はないが、昨年度同様に「あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。」の設問では、昨年よりもA評価は6.8%増えているものの、47.6%がBをつけている。学校・学年の行事では、必ず、計画・実施・反省・次に繋げるというプロセスは行っている。しかし、多くの職員が、普段の授業や教育活動における指導が、PDCAサイクルと合致していないと感じている。毎日の学校教育に対する指導法を常に向上させることは難しいが、毎日の指導から見取れること、常に良い指導法や教材開発を行うよう努力していく必要がある。 「あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。」の設問では、A、B評価が95.3%であったが、4.7%の職員がCをつけており、多忙化解消・超過勤務解消に向けて取り組んではいるが、全体的に退勤時刻が遅かったり、休日にも出勤する職員がいたりする現状がなかなか改善されない状況がある。超過勤務解消に向けて、声かけやきずなの日（定時退庁日）の制定など行っているが、根本的な解決にはなかなか至らない。来年度も本校の行事精選や校務分掌についての見直しに取り組む必要がある。また、一人当たりの持ち時間を減らせるよう、人的な措置が必要ではないだろうか。
改善策	本校の職員がすべての教育活動にPDCAサイクルを生かした教育活動を行っているが、今後よりPDCAサイクルを意識して教育活動に取り組んでいきたい。特に、授業の反省（Check）、次の授業に向けて改善点を生かした取組（Action）について意識的に授業の工夫に取り組んでいく。特に、本校は子どもが学び合いを行うことで学習効果を向上させる研究をしており、研究を推進することで、PDCAサイクルでの改善を図っていききたい。 職場の福利厚生や健康管理については、多忙さはなかなか改善されない。改善計画を示し、改善に取り組んではいる。また、学年間で協力しながら教材の準備や授業研究を行ってはいるが、授業準備の時間や成績処理の時間を確保しなければ、仕事量を減らすことはなかなかできない。学習記録のデータ化や共通の教育システムの構築、会議等の短縮化など繰り返し改善していきたい。また、市の財政が厳しい折ではあるが、加配をお願いして物理的な空き時間を作るなどしなければ根本的な改善にはならない。
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	「あなたは、危機管理（防犯、防災、事件、事故等）マニュアルを理解している。」「あなたは、校内研究に主体的に関わっている。」「あなたは職員会議に積極的に関わっている」の3つの設問で肯定的評価は、今年度も100%ではなかった。しかし、昨年度と比較すると、全体的にほとんどのA評価が2～18%増加している。教師集団の意識が向上していると考えられる。 危機管理マニュアルを改定し、昨年度のものより具体的になったこと、防災訓練に対して、より丁寧に取り組んだことが改善の理由と考えられる。危機管理マニュアルについては今後も検討し、改善していく。今後は、不審者の学校への侵入対応についても周知・訓練をする必要があると考える。 「あなたの校務分掌は、学校運営上、機能している。」は、A評価が昨年度より18.1%増加した。ただ今年度も改善はしたものの、分掌によっては軽重が大きい。できるだけ分掌が偏らないように、昨年度見直しを行い、分掌の偏りを是正してきた。また、互いにカバーし合う部分が多く、それぞれが、もっと学校運営に貢献しようという意欲が感じられた。 「あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。」については、A評価が昨年度より10.5%増加した。昨年に引き続き、学び合うことでより学習意欲を高めることに研究の柱を据え、研究を推進する意識が高まってきたと考える。職員会議への積極的な参加もそうだが、担当によって校内研究や職員会議には参加しているが、実際に主の担当にならなかったり、研究授業や一人一実践授業をしていないことからのC、Dの回答が見られる。今年度の校内研究の中では、学級担任はブロック別または学年の指導案検討や全員が行った一人一実践授業などで、昨年度よりさらに主体的に関わっていたように思う。 保護者・地域との連携については、教師、保護者とも85%以上が肯定的だが、教師に比べると、

	保護者は教師が思うほど連携について強く意識していないようである。しかし、本校の保護者は協力的な方が多く、学校行事への参加も多い。																								
改善策	危機管理については、危機管理マニュアルがより実践的・実際的になるように見直し、新たな作成を行いたいと考えている。また、その内容が職員に十分理解されるように方法や分担を確認したり、長期休業を使って、より実際的な訓練（消火機器の使い方、不審者への対応訓練・・・）を行ったりしていきたい。特に学校に不審者が侵入したときの対応については、職員が共通意識を持ち、連絡経路の徹底や職員の意識化を図っていく。 校務分掌については、分掌に対するそれぞれの職員の資質・能力に応じて決定し、どんな小さな分掌でも学校運営に貢献しているという意識を職員に持ってもらえるように今年度の反省を元に確認し改善していく。 校内研究については、今年度は昨年の研究を引き継ぎ、年間3本の道徳の研究授業を行った。また校内研究とは別枠で新任者の研究授業、外部講師を招いての学習会を行った。さらに、一人一実践授業の資料も活用し、その成果を確認しながら、来年度の研究に繋げていく。																								
Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）																									
達成状況	今年度は「あなたは、評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている。」については、A評価が昨年度より3.4%上回るが、3名の職員が『ややそう思わない』を選んでいる。授業の中で、課題に対してどのような結論を引き出させるか、また、どのように考えさせるのか、評価規準を十分に理解していなければ授業が成り立たない。授業をするに当たって、評価規準の確認が十分ではなく、日々の授業を進めることで、精一杯であるためではないだろうか。 「あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。」について、昨年度からの校内研究の成果もあり、肯定評価が100%となった。教員の授業への工夫に関して意識が高くなったと考えられる。 「あなたは、道徳の時間の確保と内容の充実に努めている。」については、今年度より、教科としてスタートし、更に校内研で研究を進めてきたこともあり、全員が肯定評価になり、A評価の数値もB評価を上回っている。道徳については、教科化を迎え、きちんと指導要領に従って取り組んでいる。しかし、教科書の使い方や、評価の方法については今後も研究していく必要がある。 「あなたは、国際理解教育や外国語活動が進展するように努めている。」については、6名の職員がC『ややそう思わない』にしている。傾向としては昨年と似た傾向である。5、6年生は朝の時間に短時間学習を行ったり、国際理解教育や外国語活動をALTとの連携で行ったりすることになっているが、担任が自分で進展させることに不安を感じていると考えられる。 外国語の教科化、外国語活動の3・4年生導入を2年後に控え、ALTと連携しながら、職員の「自分が指導する。」という積極的な意識化を図ったり、指導力を身につけたりする必要があると考える。 学習指導に関する児童アンケート「先生はよく勉強を教えてくださいか。」、保護者アンケート「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。」と教師のアンケート結果の「あなたは、児童生徒の学びを喚起する授業を行っている。」の相関については、児童は85.6%が『とてもそう思う』と大変好意的な評価をしている。しかし、90%以上の保護者は先生方が熱心に授業をしていると評価しつつも、もっとよく教えてほしいという期待を持っていると感じる。職員自らも、もっと工夫したり、より良い授業にしたりしていきたいという気持ちをもっており、決して現状に満足していないことがうかがえる。																								
	先生はよく勉強を教えてください(C-6、TⅢ-②、P-11) <table><thead><tr><th>対象者</th><th>よく教えてくれる(4点)</th><th>教えてくれる(3点)</th><th>あまり教えてくれない(2点)</th><th>教えてくれない(1点)</th><th>わからない(0点)</th></tr></thead><tbody><tr><td>児童生徒</td><td>85.6</td><td>13.2</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>55.9</td><td>41.2</td><td>2.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>30.1</td><td>61.9</td><td>4.8</td><td>0.2</td><td>2.9</td></tr></tbody></table>	対象者	よく教えてくれる(4点)	教えてくれる(3点)	あまり教えてくれない(2点)	教えてくれない(1点)	わからない(0点)	児童生徒	85.6	13.2	0.0	0.0	0.0	教職員	55.9	41.2	2.0	0.0	0.0	保護者	30.1	61.9	4.8	0.2	2.9
対象者	よく教えてくれる(4点)	教えてくれる(3点)	あまり教えてくれない(2点)	教えてくれない(1点)	わからない(0点)																				
児童生徒	85.6	13.2	0.0	0.0	0.0																				
教職員	55.9	41.2	2.0	0.0	0.0																				
保護者	30.1	61.9	4.8	0.2	2.9																				
改善	評価規準と評価方法を明確にした授業を行うことは、なかなか難しいが、単元の始まりには必ず単元全体を見通し、評価規準を明確にし、子ども達につけたい力が何なのか確認することを学年主																								

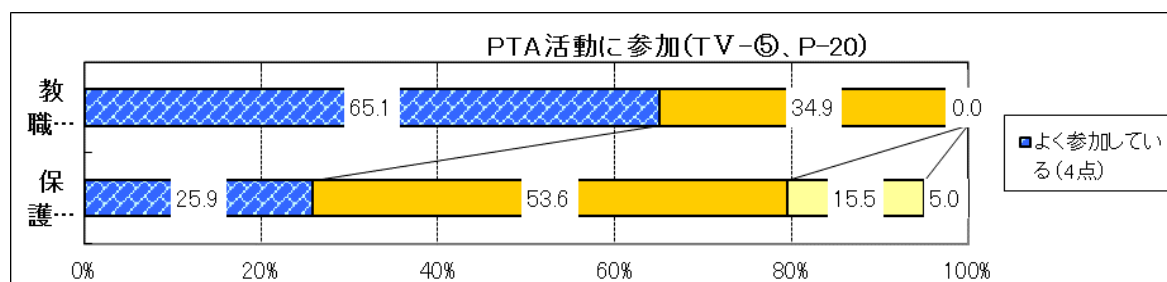
策	任のリーダーシップの下、学年で一緒に考える体制を作っていく。また、授業方法についても発問の方法や子ども達の理解を助長できるような、課題解決方法の工夫について研究していく。 道徳は今年度より、外国語は教科化を目前にし、より充実した授業になるように、教職員の資質向上、指導力向上が望まれる。今年度の校内研の中でも道徳については評価も含めて研究を進めてきたが、来年度更に研究を深めたい。外国語教育についても今年度の授業実践を元に、ALTの連携を得ながら、担任だけでもどのように授業を構成していくか、他校や先進校の情報を収集し、一時間一時間の授業を大切に職員自ら授業づくり（教材に関する研究・指導法の研究）を進めていく。 「先生はよく勉強を教えてくれる」と考えている児童の気持ちを大切にしながら、日々授業実践への研鑽を積み、保護者にも目に見えるような結果を出していくことが課題となる。学力を定着させるために、常に授業改善の視点を持ち、教師と保護者が連絡を密に情報を共有し合い、子ども達の学力向上に向けて協力していく。												
IV	生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）												
達成状況	「あなたは、生き方教育（キャリア教育・進路指導など）を児童の実態に応じて行っている。」を除いて全設問が、A評価がB評価を上回っている。これは、教職員が日々、児童の問題行動や一人一人の児童の健全発達についてしっかりとした指導を自信持って行なっているためだと考えられる。本校は規模が大きい割には、問題行動が少ない。これも教職員が共通意識を持って指導したり、問題行動が起きた際に学年等で協力して素早く指導したり、管理職に相談・報告を行っているからだと思う。また、あいさつ・声かけ運動を始め、業前活動（みどり）の時間に「ちょっといい話」として、道徳的な心情を涵養する話を教師が交代でする取り組みも子ども達の内面づくりに役立っている。 「あなたは、生き方教育（キャリア教育・進路指導など）を児童生徒の実態に応じて行っている。」の設問に対してはA評価よりB評価が多かった。教員の中でも、普段の学校での教育活動とキャリア教育で行うべき具体的な活動のとらえ方が曖昧であったためだと考える。本校教員が共通理解を図り、キャリア教育を日々の継続的な係活動や当番活動などの役割の積み重ねと捉えたと回答が変わったと考える。 「あなたの学校は、職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている。」という設問に対して、この3年間で否定的な評価（C・D）がなくなり、徐々にA評価が増えている。今年度も肯定的評価が100%であった。これは、職員会議の中での定期的な情報共有や、日々の学年間で問題点の共有などが円滑に行われているからであると思われる。また、PCの掲示板機能を使い、素早い連絡が必要な場合、児童にすぐに指導して欲しい場合等に情報を共有していることも良い評価になっていると考えられる。 規範意識の高揚（きまりや約束を守るように指導している）については、教職員は、A評価が78%という高い割合で指導していると回答しているが、児童はきまりについて守っているかどうかの自信がそれほどなく、保護者についても、その子様子を見て「学校は、子どもたちの間違った行動に対し、指導している。」という設問に対して、A評価が低いと考えられる。しかし、子どもは規範意識に対して、94%以上が守れていると感じており、教職員の結果から考えても落ち着いた学校生活が送れていると考えられる。これを見る限りでは、教職員の指導に対する意識と保護者の考えに差があることを考えると、それが保護者に伝わっていないことも考えられる。今後、学校で指導したことを保護者にもしっかりと伝え、家庭と連携して児童の学校での状況を共有しながら指導していく必要がある。 規範意識の高揚～きまりや約束を守るように指導している（C-21、TV-②、P-6） <table><thead><tr><th>対象</th><th>よく指導している(4点)</th><th>指導している(3点)</th></tr></thead><tbody><tr><td>児</td><td>58.0</td><td>36.1</td></tr><tr><td>教</td><td>78.0</td><td>19.5</td></tr><tr><td>保</td><td>21.1</td><td>67.7</td></tr></tbody></table>	対象	よく指導している(4点)	指導している(3点)	児	58.0	36.1	教	78.0	19.5	保	21.1	67.7
対象	よく指導している(4点)	指導している(3点)											
児	58.0	36.1											
教	78.0	19.5											
保	21.1	67.7											
改善策	生徒指導について教職員は、児童理解に努め、きめ細やかな生徒指導を心がけている。問題行動や児童の状態についても素早く対応している。今後も児童が望ましい方向に成長するように、学校だよりや学年だより等で情報や様子を保護者に提供し、保護者と共通認識を持ち、協力して指導していくと共に、全教職員が連携して生徒指導に当たっていく。												

V 地域との連携について

この評価項目で最も教職員の評価が低く、肯定的評価が83.8%なのが「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」である。総合や社会科見学で、地域の施設を訪れたり、地域の方に講師となって授業を仕組むことがあるが、通常の授業の中に組み込むことは難しいと考えられる。現在、本校には支援を必要とする児童がたくさんいる。本校にもこれまで、教育活動に協力していただいた方をまとめているが、日常的な授業への協力をしていただける地域人材の発掘、地域人材をまとめているコーディネーターの選定等の仕組み作りが必要になる。できれば地域の方に助けていただく仕組みを構築し、児童一人一人にとってよりよい学びを作っていくことも必要である。

また、「あなたの学校は、教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。」と「あなたの学校では、積極的にあいさつ・声かけ運動に取り組んでいる。」の2つの設問は高い割合で肯定的である。本校は、情報担当を中心にHP（ホームページ）をうまく使い情報発信をしている。HP更新も頻繁に行っている。あいさつ・声かけについては、朝、各クラスが交代であいさつをしたり、生活委員会や担当教師が、子ども達を迎える形で、あいさつや声かけを実施したりしている。今年度はあいさつと共にハイタッチを行い、より子ども同士の親近感を高める活動も行っている。それにより、双葉東小はあいさつが盛んな学校として子ども達に定着し、あいさつを明るく元気にするようになってきている。

「あなたは、PTA活動に主体的に参加している。」の設問で教職員はA評価が多く、PTAの会議も含め、積極的にPTAとの関わりを持つようにしていることが分かる。保護者も79.5%がPTAの活動に参加していると考えており、学校との距離が近くなっているように感じられる。



「あなたの学校は、学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合いの結果が学校教育に生かされている。」については、肯定的評価が100%になり、学校評議員についての意識が高くなっていると考えられる。学校関係者評価委員会の結果を教職員に提示してはいるが、簡単な説明で終わっている。教職員に示す時にしっかり時間を取って、次年度につながるようにする必要がある。また、今回の評価結果を基に新年度初めに確認しなければならないようなことについては、きちんと確認したい。

「あなたの学校では、組織的なキャリア教育の推進に努めている。」については、A評価よりB評価が多かった。これについては、本校のキャリア教育は各学年の年間計画に位置づけがあり、育成したい能力についても明記されている。教職員は、教育活動へのキャリア教育の関連について確認する必要がある。

あいさつについて、教職員は、「あなたの学校では、積極的にあいさつ・声かけ運動に取り組んでいる。」の設問に対して肯定的評価(A・B)が100%で教職員全員が意識して指導している。児童も「学校で心のこもったあいさつをしていますか。」の肯定的評価が92.2%で、意識してあいさつしていることがうかがえる。保護者も家族同士のあいさつをすることが95.6%、地域の人へのあいさつへの指導が87%と家庭でもあいさつに対して積極的に指導していることが分かった。しかし、昨年同様、「学校は、子ども達に学校の外でもあいさつするように指導していると思う。」という設問に対して、保護者は14.5%が否定的であった。学校外での大人に対しては、交通指導の方からもあいさつが少ないことを指摘されている。学校では元気にあいさつが出来る子どもも校外では出来ない場合もある。学校での取組が保護者に伝わっていないことも考えられる。これからは学校での取り組みを理解してもらいながら、学校と家庭が協力して、あいさつ運動を盛り上げていきたい。

	あいさつ活動～地域の人と挨拶をする/家庭で挨拶をする(C-18、TⅣ-①、P-18、P-17) <table><tr><td>児</td><td>60.8</td><td>33.2</td><td>5.0</td></tr><tr><td>教</td><td>85.4</td><td>12.2</td><td>2.0</td></tr><tr><td>保</td><td>35.0</td><td>52.0</td><td>11.3</td></tr><tr><td>保</td><td>46.7</td><td>48.9</td><td>3.0</td></tr></table> 0%10%20%30%40%50%60%70%80%90%100% よくしている(4点) している(3点)	児	60.8	33.2	5.0	教	85.4	12.2	2.0	保	35.0	52.0	11.3	保	46.7	48.9	3.0
児	60.8	33.2	5.0														
教	85.4	12.2	2.0														
保	35.0	52.0	11.3														
保	46.7	48.9	3.0														
改善策	これからの学校運営にとって、地域との連携は欠かすことができない。地域との連携とはどんな形で広げていけるかを学校体制として考えていく必要がある。行事への関わりはこれまでも協力していただいたが、日常的な授業に対する協力体制について意識を高め、どんなことができるのか、どのような形でできるのかを教育委員会の指導を受けながら検討し、地域連携に繋げていく。今年度も、同窓会の方々にお願いし、いくつかの学年の授業に協力していただき大きな力となった。今後も同窓会、PTAを中心とした地域と連携する仕組みを構築していきたい。 あいさつについては、かなり定着してきている。PTAでも「あいさつ運動」に取り組んでいる。今年度の取組を生かし、さらに学校での「あいさつ運動への取組」を発信し、地域や家庭と連携をとりながら取り組んでいく。																
Ⅵ	学校の特徴に関して																
達成状況	学校の特徴に関しては、9問中全ての設問において肯定的評価(A・B)が92%以上であった。また、全ての設問においてA評価がB評価を上回っている。特に、あいさつに関わる設問は高評価であり、教職員の意識の高さが分かる。また、「児童会活動は主体的な取り組みがなされている。」では、A評価(とてもそう思う)が81%あり、教職員がそれぞれの担当で工夫し取り組んでいることが分かった。特に、あいさつ運動や集会活動(みどり、合唱等)など、児童会組織を使い、児童が学校の特徴を自分たちで作っていく意識を育てている。 今年度も読書活動への取組において、外部ボランティアの協力を得て、「読みますクラブ」がある。「読みますクラブ」の読み聞かせ活動も、本校の特徴の一つとして、児童の読書への興味を支えている。 今回、学校の特徴に関してA評価が最も多かったのが、「あなたの学校は、授業参観や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的実施している。」だった。学校開放日はどの学校でも設定するのだが、保護者からも「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知るよい機会になっている。」の項目の肯定的評価が97%を超え、保護者の理解や、協力を得るよい機会になっていると考える。 児童アンケートで「学校は楽しいですか。」という設問に対して、94.3%の児童がA・B(とても楽しい・楽しい)と回答した。このことは、学校の特徴として一番大切なものだと考える。また、保護者についても「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」が93.6%となり、子どもが毎日楽しそうに登校している様子がうかがえる。しかし、「あまり楽しくない。」「楽しくない。」と答えた38人が、「楽しい」と思えるような学校にしていかななくてはならない。一人一人の児童が主役であり、その主役が輝けるような学校を、地域・保護者・職員・児童で協力して作っていけるように努力していきたい。																
3	まとめ																
	＜成 果＞ ・昨年度よりも教職員もA評価の割合が増えたことから、学校教育目標に基づき、教育活動を行う努力を続けている様子がうかがえる。 ・児童の自律的な活動を促すために、児童会組織を有効に活用し児童と共に取り組んでいる。 ・自らの資質向上のために、全教職員が校内研究を中心に分かりやすい授業の工夫に取り組んでいる。 ・保護者・地域との連携・協力を深めようとしている。 ・児童が、毎日楽しく学校生活を送れるよう、全教職員が子どもに寄り添い、丁寧な教育活動を行っている。 ＜課 題＞ ・教育活動において、P→D→C→Aサイクルを生かせるような取組について意識を高める。 ・危機管理についての意識を向上し、災害・事件が起きたときの教職員の行動について確認する。 ・評価規準、評価方法を明確にした授業に心がける。 ・本校の教育活動におけるキャリア教育との関連性を位置づけ、明確にし、キャリア発達を促す。 ・PTA・地域と連携し、授業・行事への指導に協力していただく方法を検討する。																
